

「神戸のユダヤ人」

- ▶講師：岩田 隆義さん
(神戸外国人居留地研究会理事)
- ▶場所：海外移住と文化の交流センター

2016年

12月3日(土)

14:00～15:30

予定変更!!

※3日に予定していたミニフィールドワークは中止になりました

神戸港は、開港以来発展を続け明治末には上海・香港をしのぐ東洋一の港となりました。それにともない多くの外国人が定住します。そのなかにユダヤ人もいました。神戸には国内最大のユダヤ人コミュニティーが形成されましたが、手塚治虫の漫画『アドルフに告ぐ』の主人公の一人も神戸育ちのユダヤ人という設定になっています。

1933年、ヒトラーは政権を握ると、ユダヤ人への迫害を強め、そのため多くのユダヤ人が難民となりました。1939年に第2次世界大戦が始まると、その混乱のなか、当時中立国だったリトアニアに多くのユダヤ難民が逃げ込みました。1940年6月、リトアニアはソ連に占領され、各国の公館が閉鎖されていきましたが、まだ業務を継続していた日本領事館にビザを求めるユダヤ難民が殺到します。領事の杉原千畝は本国からの命令に反して、リトアニアから退去する間際まで日本通過ビザの発給を続けました。これが後に「命のビザ」と呼ばれることになりました。

この「命のビザ」を手にしておよそ6,000人のユダヤ人が日本へ逃れてくることとなります。その内、4,000人以上のユダヤ難民が神戸にやってきました。神戸のユダヤ人コミュニティーが難民を受け入れるために活動し、北野町付近の民家やホテルを借りて避難所としました。また、日本人も支援していたことが知られています。神戸のユダヤ難民の多くは、1941年秋頃までにはアメリカなどに向けて旅立っていきました。

今回のセミナーでは、神戸外国人居留地研究会理事で神戸のユダヤ人コミュニティーを研究している岩田隆義さんに、ご講演いただきます。また、セミナーの2日前の12月1日、岩田さんの案内で神戸シナゴーク（ユダヤ教の会堂）などユダヤ人関係のところをまわるフィールドワークを行います（要事前申込）。

▶参加資料代：【一般】800円 【会員・定期購読・学生】500円

事前学習 ユダヤ人と神戸北野フィールドワーク

内容が変更になりました！

日時：2016年12月1日(木) 13:30～15:30 集合場所：『北野工房のまち』入口
神戸市中央区中山手通3-17-1
定員：15名（要事前申込・先着順）
参加費：無料

※シナゴークは宗教行事が行われている場合は、外からの見学になります。

▶お申込み・お問い合わせ

ひょうご部落解放・人権研究所 電話：078-252-8280 mail：blrhyg@extra.ocn.ne.jp